

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース 6月号

2018年6月1日発行

事務局：大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171

FAX (098) 864 - 1874

E-mail t-matayosi@ns.omotokai.jp

編集：中村 海由 (牧港中央病院)

## 研修報告

沖縄協同病院 新垣哲治

5月16日(水) 沖縄コンベンションセンターにて、市町村が主体的に取り組む地域包括ケアシステムの構築に向けての理解と市町村支援を目的に、関係者(専門職団体)として、沖縄県より地域包括ケア市町村支援事業「地域包括ケアシステム総論セミナー」への研修参加依頼があり当協会からは樋口、安慶名、新垣の3名が参加してきました。

この市町村支援事業の概略は、①保険者機能強化等による自立支援・重度化防止に向けた推進。①-1 多様な地域のニーズや特性を踏まえた地域包括ケアシステムの構築のための道筋(ロードマップ)の作成支援①-2 地域における(医療・介護・介護予防・住まい・生活支援)を担う多様な専門職による連携構築に向けた支援。②地域支援事業などを活かすための“地域づくり”に向けた取組みの推進。②-1 地域の特性や実情に応じた“地域住民の支え合い(自助・互助)”による“地域づくり”に向けての取組みや“地域包括ケアシステムの進化・推進”に向けて部局横断的に取り組もうとする市町村等を応援するモデル事業の実施。となっています。

今回のセミナーでは「市町村総合支援事業に関する概要」「地域包括ケアシステム総論」「総合事業/整備事業と地域ケア会議」「在宅医療・介護連携推進事業と報酬改定」「保険者による地域マネジメント」とボリュームのある内容でした。その中から MSW も参画している「在宅医療・介護連携推進事業」について一部報告したいと思います。

現在、各市町村・広域連合単位で連携の構築が進められている「在宅医療・介護連携推進事業」をセミナーでは「まとまる」と置き換えて説明し、地域の中にある「バラバラ」なものを「まとまる」仕組みが重要であると強調しています。具体的には ■ 「考え方」をまとめる→サービス担当者会議や地域ケア会議を通じて ■ 「ケアの方法」をまとめる→医療介護連携パスなどのケアの手順を統一化 ■ 「書式」をまとめる→アセスメントの方法や書式を統一化 ■ 「事業所」をまとめる→事業・事業提供・経営統合 ■ 「研修」をまとめる→サービス事業所の研修の共同開催 ■ 「サービス」をまとめる→複数のサービスを一つの事業者が統合して提供。等があります。

### CONTENTS

研修報告①	1~2
研修報告②	2~3
南部圏域報告	3
自主勉強会報告	4
理事会議事録	4~7
編集後記	7

この基本的な理念、統合された手順・情報・教育、組織が「まとまる」ことは利用者にとって利益（一体的にみえるケア）につながりますが、一方で基本的に異質（経営が違う/考え方が違う等）な者同士が統合的（包括的に）活動することはコスト（負担）になるため、この「連携＝コスト」をいかにして小さくしていくかが「まとまる」ためのカギであるとしています。まずは、スタンダードなレベルからで良いと思います。ケアに対する考え方、方針、技術、書式、ルールなどできる限り共有し標準化の方向に改善していくことが大事です。当協会でも各市町村・広域連合単位での取組を情報交換・共有し連携構築に取り組んでいきたいと考えています。

最後に総論から、今更ですが地域包括ケアシステムとは、「何を目指しているのか」？と講師から（財政論はとりあえず置いて・・・）「高齢者が尊厳を保ちながら重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができる。」病気や疾病を機に病院や施設、各種サービス利用などの制限（非日常）で、維持出来なくなったこれまでの日常（「住み慣れた地域」→「なじみの人間関係の中で」・「自分らしい暮らし」→「マイペースに生活できる気楽さ」）を可能な限り近づけることを目指すこと・・・単純に私自身が介護を必要な状態になった時そういう社会であって欲しいと共感しました。

---

## テーマ 2018 協同集会 in 那覇「いま、ここに、ともにいきる」参加報告

平成 30 年 5 月 21 日

大浜第一病院 医療福祉課 當銘 由香

---

5 月 20 日（日）沖縄県総合福祉センターにて開催された上記集会へ参加してきました。

沖縄大学名誉教授の加藤彰彦氏と一般社団法人日本社会連帯機構代表理事の長戸祐三氏による記念対談「今をいきる、明日をいきる、未来へいきるということ」で集会がスタート。

対談の中で、加藤氏が『生きる現場＝暮らしている地域（コミュニティ）である』こと、そのために支援者は相手を知ること、生活を見ること、自分をしてもらうことという対話を通じて共感、信頼が得られるようになり、信頼が得られて初めて本当の課題が抽出出来ると話していました。実際、彼は横浜市のだや街と呼ばれる場所で生活し、雑談からアイデアが沢山抽出され、居場所作りを進めていった体験をされていたとのことで、とても重みのある話でした。

地域の中でともに生きていくために「一人の声をみんなの宝物にする」というキーワードを基に、世代や思想などを超え、対話をしていくことの必要性を改めて学ぶことができました。

パネルディスカッションでは、実際地域で活躍されている 4 人のパネリストの活動報告がありました。

子どもの居場所作りや高齢者の居場所作り、労働力ではなく仕事力を生かすための新たな仕組みや相互扶助の仕組みづくりなどいずれも地域住民が主体となり活動できるシステムづくりを「覚悟と連帯」「自立とささえあい」「共同」などにより実践されている様子が伝わり、日ごろ病院の現場からは分からない地域の強さやそのシステムづくりに紛争する支援者のことを知る機会となり、目からうろこ状態でした。

その他分科会では、高齢化が加速される中で、地域の中で高齢者の活躍する場を作ることの重要性、

高齢者の仕事力を高める事業の展開などについて話題が提供されていました。

コメンテーターの方が、高齢者は最大の教育力であり観光力であると話をされ、人生経験そのものが教育者としての対象となること、方言や地域の歴史などの情報を観光に生かしていけるとコメントされており、私を含め多くはこれから迎える高齢化社会をマイナスととらえがちですが、プラスに生かせば住民も地域も活気が生まれるのではないかと考え方を改めさせられました。

今回の集会に参加して、考え方ひとつでマイナスもプラスに展開できることを実践報告から学ぶことができ、私自身もプラス思考で物事を考えられるよう意識していきたいと思いました。

---

## 南部圏域報告

### H30年度第1回南部地区在宅医療介護支援ネットワーク会議に参加して

大浜第二病院 安慶名真樹

---

H30年度、県MSW協会から代表で、南部地区の医療介護連携事業の一環である上記会議に参加しました。総勢30名の南部地区の医療介護従事者がメンバーとして集い、南部地区医師会コーディネーターの大城則子さんの進行の元、H29年度の活動報告とH30年度の活動案が報告されました。その中の救急医療のかかり方の報告を取り上げてみます。

H29年度、南部6市町で「救急現場における医療と介護の多職種連携研修」が開催され、その中で救急連絡シートの活用が提案されました。シートには、病歴やかかりつけ医、薬の情報、KP、緊急連絡先などの基本情報と、救急要請時の本人の状況（いつ、どこで、どうなった等）を記載する欄があり、有料ホームなどでも最低限これがあれば、夜間現場を離れられない職員が付き添わなくてもいいように、と配慮された内容になっていました。その中にDNARについて同意の有無をチェックする欄があり、そこに議論が及びました。

急性期病院の関係者からは、不必要な救急受診はなるべく減らしたい思いがあり、日頃からDNARの意思確認を施設側へ求める要望がありましたが、その同意がいつ、誰への説明で取られたものかによっては、真に活用できる情報となるか課題だという意見がありました。体の状態は日々変化するので、本人家族のDNARの意向も変わってしかり・・・どのタイミングで意思確認を更新していくのか、課題が残りました。また、一般の生活者である本人や、医療従事者ではない施設職員にとっては、そもそもDNARって何？という純粋な疑問はまだ根強いという現状もあり、シートができたからこれに○（まる）してね、という単純な問題ではないことをあらためて感じ、終末期への取り組みの難しさを再認識しました。

他にも、薬剤師協会の「お薬手帳を病院ごとに持ちたがる高齢者も多い中、全部見せてください、と言わないと情報が洩れますよ」というアドバイスや、栄養士会のコンビニで作れる流動食のパンフレット案内（6月から栄養士会のホームページに掲載とのこと）など、貴重な情報が得られました。

いろんな関係者の中でいろんな議論をすることで、互いの立場や考え方の相違に気づける大切な場に参加する機会が持てたことを、とても感謝した会議となりました。初めての参加でMSW協会の活動案内も出来ず、メモを取るのに精いっぱいでしたが、これからはMSW協会代表として、皆と活発な意見交換が出来るよう頑張りたいと思います。

---

## 「平成30年度めだかの学校について」

平成 30 年 5 月 17 日  
大浜第二病院 医療相談室 謝敷 奈津子

---

1～3年目を対象に行っている「めだかの学校」は、ハートライフ病院の川満さんを中心に企画していましたが、今年度より謝敷が引き継ぐ事になりましたのでどうぞよろしくお願いいたします。

今年度も「めだかの学校」を盛り上げていこう！と言う事で、県内のMSW1～3年目の方々へ声かけし顔合わせを行いました。6カ所の病院12名の新人MSWが集まり、各々で学びを深めたい事を出し合い、月1開催で勉強会を持つことになりました。

自主勉強会とはいえ、皆勤賞での参加者は少なく、昨年度は講師の方をお呼びしても4名ほどしか集まらない月もありました。不参加の理由としては「業務が終わらない」「先輩を差し置いて先に帰りにくい・・・」というのが第一となっています。

月1の業務後に集まり行う為、業務の調整で参加できなかつたり、開催地が遠方で間に合わなかつたりと色々な都合もある中で毎月の参加を目指して頑張っています。現在はハートライフ病院を拠点に開催を行っていますが、1～3年目の新人がいる病院の先輩方にはご協力をお願いします。

今年度も毎月多くの参加を目標に企画・運営を行っていきます。先輩方へ講師を依頼する事もあるかと思しますので、その際は是非力を貸してください。よろしくお願いいたします！

---

## 平成 30 年 5 月 理事会議事録

---

平成30年度 沖縄県医療ソーシャルワーカー協会 5月期 定例理事会

期 日：平成30年 5月14日（月）18時30分～20時30分

場 所：県総合福祉センター西棟2階

出席者：樋口美智子、當銘由香、新垣哲治、石郷岡美穂、伊禮智則、安慶名真樹、香村真範、秦克之、

欠席者：又吉智子、島袋恭子、宮良あさの、大城則子、奥平藤也、仲地貴弘

記録者：秦克之

### 1. 報告事項

#### 1) 那覇市医療介護連携について（新垣）

- ・那覇市の医療介護連携について中間報告、現在高江洲さん達も手伝ってもらいアンケート入力は近日終了予定。

また那覇市医療協議会（那覇市医師会、消防）那覇市医師会からの問題提起

質問例①那覇市の申請に関して30日以内が基準であるがどのようになっているのか

②過ぎている場合はどのような理由ですか、

③対策は？

過去前回も同様な質問を行ったがケアマネの暫定プランが遅いというケアマネ側の理由になったため質問に関して検討必要。

## 2) 各部会事業報告

①研修部（香村）：研修の事業報告、平成30年度は島袋・香村・望月・長が担当理事予定

②広報部（安慶名）：前回同様報告

③社会活動部（秦）：各圏域在医介連携協議会委員について

・中部地区広域連合

（中部徳洲会：与儀篤、ハートライフ：望月祥子、かんな：外間望、若松：香村真範）

・宜野湾市（宜野湾記念病院：岡千佳代）

・沖縄市・うるま市（中頭：秦克之）

・南部地区医師会（大浜第二病院：安慶名真樹）

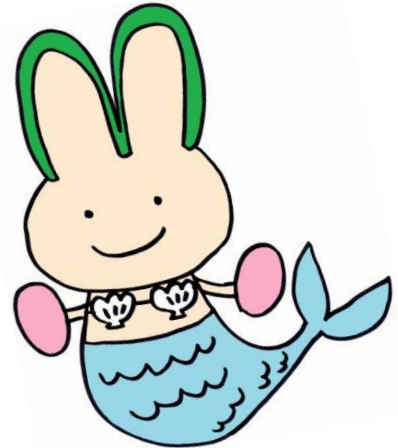
・北部地区医師会（勝山：山城つきえ）

・宮古・八重山（宮古病院：奥平藤也）

・那覇市（沖縄協同：新垣哲治）

3) 沖縄県ソーシャルワーカー協議会（5月期代表者会議）

・5月11日（金）樋口参加、（別添議事録参照）



## 2. 協議事項

1) 総会平成29年度事業総括及び平成30年度事業計画：

①事務局（當銘）：決算報告（文書参照）監査は来週土曜日予定

・樋口：決算報告書の書式を、他団体及び税理士から意見を聞き改善して欲しい。

・當銘：各部企画やSW協議会事業への参加時交通費や謝金規定を見直す。

②各部会報告/計画：各部会共通様式で作成すること。

・研修部（香村）：（別紙）

・広報部（安慶名）：（別紙）

・社会活動部（秦）：（別紙）

・部長/各部委員は、中堅者からリーダー養成の視点で自薦・他薦・推薦を行う。

③平成30年度事業方針案：樋口

【重点目標】>>承認

1. 専門性の確立：

1) 経験年数に即した研修を行う。

2) 認定社会福祉士・認定医療社会福祉士制度に対応する研修内容・時間等を整理する。

2. 社会貢献：

1) 地域包括ケアシステム構築に資する人材育成・資質向上等に関する事業を受託し実施する。

2) 沖縄県医療保健連合（なごみ会）主催県民健康フェアに参画する。

3. 組織体制の確立・強化：

1) 事務局体制、特に財務に関して改善を行い、各部会で事業を執行する。

2) 会員実態調査を行い、会員のニーズを把握するとともに、組織率向上を図る。

4. 広報活動の強化：

1) ホームページ、ニュースの編集方針を明確にし、一般社団法人としての広報活動を行う。

2) 会員マップ（研修修了者・認定医療社会福祉士・認定社会福祉士等含む）を掲載する。

5. 学会・セミナー開催主催団体としての体制整備：

- 1) 九州医療ソーシャルワーカー協議会沖縄大会を開催する。
- 2) 幹事団体として沖縄県ソーシャルワーク学会を開催する。

④役員体制案：定款に基づき理事15名以内推薦と監事の増員を行う。

監事：富樫八郎、宮良あさの

会長：樋口美智子

副会長：新垣哲治（島袋恭子：理事退任希望有り）、又吉智子

事務局長：當銘由香

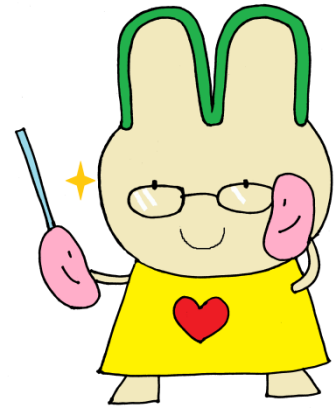
事務局担当理事：新垣哲治、大城則子

広報部担当理事：安慶名真樹、奥平藤也、仲地貴弘、

研修部担当理事：香村真範、望月祥子、長原野

社会活動部：秦克之、伊禮智則、石郷岡美穂

理事候補：山城つきえ（勝山病院）



2) 関係機関からの講師・委員等推薦・派遣依頼等について

①ヘルスケア関連団体ネットワークの会沖縄学習会（略称「VHO-net」）：當銘

テーマ：連携目的「MSWとの繋がり」

日時：平成30年5月26日（土）13：00～16：30、会場：未定

講師：石郷岡美穂氏（琉球大学医学部附属病院）派遣>>承認

②南部地区医師会／豊見城市の多職種研修会：樋口

第一回7月予定、20分の県入退院支援連携デザイン事業の報告依頼有り、共通スライドを作成し、初回は会長が行う予定。今後各圏域で同様研修が開催される場合は、各圏域の協議会委員等で担当。

③沖縄県福祉サービス運営適正化委員会（第10期）委員候補推薦：當銘

委員：新垣哲治氏（沖縄協同病院）推薦>>承認

④長崎県MSW協会から「長崎県：医療介護連携の医療資源マップ」にMSW協会のバナーのリンク依頼が有り：當銘>>承認

長崎県MSW協会協会誌50号記念号への「長崎県協会に寄せる一言」（各県会長）寄稿依頼有り：當銘>>樋口が作成

⑤沖縄県平成30年度地域包括ケア市町村支援事業「地域包括ケアシステム総論セミナー」

日時：平成30年5月16日（水）、会場：沖縄コンベンションセンター

県高齢者福祉介護課から専門職団体枠3名受講者推薦依頼有り：樋口>>樋口、新垣、安慶名、承認

認

3) 九州おきなわ大会実行委員会報告：伊禮

①記念講演：平田さんへ相談、望月・島袋・伊禮で打ち合わせ。内容：地域交流、やりたい人を助け

②2日目：安藤先生、ライフコース、3つ今と昔の変化、地域性、時代性、MSWがどのように見ているのか気になるためディスカッション：樋口会長と熊本県土肥会長の内諾有り

③ワークショップ、2～3行程度でホームページの案内5/25アップ予定

④その他：予算、会場費の検討

⑤前回九州おきなわ大会は実行委員長・大会長・協会会長3名を立てていたが、今回は大会長・協会会長1名とする。

⑥30周年記念大会になるので、懇親会は記念式典としての内容を入れる。

4) 平成29年度沖縄県入退院支援連携デザイン事業実績報告書／平成30年度事業計画：樋口  
・(別紙参照)

5) 入退会等について

異動：奥平藤也（南部医療センター→宮古病院）

退会：東恩納寛之（豊見城中央病院）

入会：奥座千夏（大浜第一病院）、眞榮城怜未（小録病院）

\*次回開催：平成30年 6月18日（月）18：30～ 県総合福祉センター西棟2階  
司会：樋口、書記：伊禮、連絡：石郷岡

## 沖縄県医療ソーシャルワーカー協会 ホームページ

<http://www.msw-oaswhs.jp>

### ☆ 編集後記 ☆

今回、初めて編集を担当させていただきました。

梅雨入りしましたが、なかなか雨が降らないように感じます。

6月はたくさん雨が降るといいですね～！

お忙しい中、原稿を快く引き受けていただき本当にありがとうございました。

